

## 【取組事例】

# 鳥取市立湖山小学校

＜1学年2学級規模  
学年内担任の授業交換による教科担任制＞

### 1 指定校の概要

(H29.4.1現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	(H29.5.1現在。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数23名
学級数	2	3	2	2	3	2	14	
児童数	51	74	66	60	72	64	387	

### 2 教科担任制の実施概要

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4.1	0.9	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	1
6年1組	A	A	A	B・F	A	G	A	A	A	A	A	A	H
6年2組	A	A	B	B・F	B	G	B	B	B	B	B	B	H

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4.1	0.9	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	1
5年1組	C	C	E	C・I	D	C	C	F	C	C	C	C	H
5年2組	D	D	E	D・H	D	C	C	F	D	D	D	D	H
5年3組	E	G	E	E・I	D	C	C	F	E・I	E	E	E	H

※A=6年1組担任 B=6年2組担任 C=5年1組担任 D=5年2組担任 E=5年3組担任  
F～=担任外

### 3 研究の内容や方法等

- 本校では28年度から担任同士の授業交換による「鳥取型教科担任制」を導入し、教師の得意分野を生かした授業実践により、質の高い授業による児童の学力の向上をねらってきた。児童の実態に合った授業になるように改善を行った結果、児童の意欲の向上が見られた。29年度は児童の様子を多面的に捉えて担任間の情報交換をより密に行い、学級経営・生徒指導の充実を生かした授業実践を展開することに重点をおく。複数の指導者による組織的・協力的な指導の充実が図れ、多面的な児童理解が深まること、また、いわゆる中1ギャップ等の解消に向けた、小中学校の円滑な接続を見据えた有効な手立ての一つになることが期待できる。

#### (1) 学習指導

- 担任による交換授業の実施
- 算数科における少人数指導の実施
- 効率的な教材研究の実施
- 相互授業参観による指導方法の工夫と改善

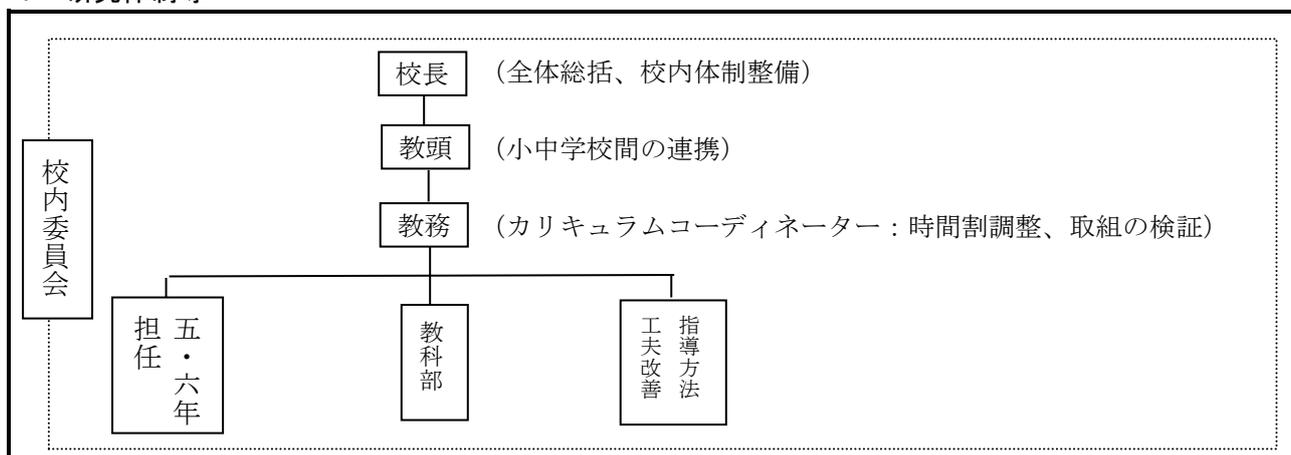
#### (2) 生徒指導

- 複数の教師による多面的な児童理解と情報の共有化
- 問題点の早期発見とチームによる解決策の構築

#### (3) 小中連携

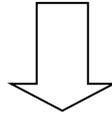
- 中学校における教科担任制への抵抗感の緩和

### 4 研究体制等



5 2年間の取組概要と成果 <1学年2学級規模。学年内担任の授業交換による教科担任制>

1年次の取組概要と成果	1年次の課題
<p>&lt;5年、6年担任のいずれも社会科・理科の授業交換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人に対する多面的な理解が深まった。</li> <li>・同じ教師による学習評価が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等の時間割変更の調整が困難</li> <li>・教員の得意分野での教科担任制が実施できず</li> <li>・社会科の学習が調べ学習が中心となり、深まりがない</li> </ul>



2年次の成果

<5年は理科と社会で授業交換。6年は国語と算数で授業交換>

- ・一人の担任が受け持つ教科を減らすことにより、教材研究の時間確保とより質の高い授業を実施
- ・複数の目で児童を支えることで、相談の場や機会が増え、児童や保護者に安心感を与えられるようになった
- ・学年内で共通の学習指導・生活指導が可能

### 教科担任制アンケート（10月）

**児童**

教科によって先生がかわることをどう思いますか

いろいろな先生に教えてもらうことで学習が分かりやすくなりましたか

### 記述欄から

**児童**

**5年生**

- ・いろいろな先生と話ができる。
- ・わかりやすい。
- ・楽しい。おもしろい。
- ・いろいろな先生と勉強をしたい。
- ・授業の雰囲気かわる。
- ・気持ちの切り替えができる。
- ・絆がふかまる。

△いろいろなことがわかる。

△担任の先生の授業が少なくなる。  
△関わりが少なくなる。  
△教え方が違って迷う。

### 記述欄から

**保護者**

**5年生**

- ・いろいろな先生と関わる。
- ・中学校への移行がスムーズ。
- ・先生の専門性を生かす。
- ・複数の目で児童をみてもらえる。
- ・気持ちの切り替えができる。
- ・子どもの世界が広がる。
- ・授業準備が少なくなるので、担当教科により深く取り組んでもらえる。
- ・質問にきちんと答えてもらえる。
- ・相談できる場につながる。
- ・合わない先生がいても気持ちの切り替えがしやすくなる。

△学力が伸びるのか  
△担任が子どもをしっかり理解できるのか

**6年生**

- ・中学・高校に向けて慣れる。
- ・子どもが飽きにくい。気分転換。
- ・先生の専門性を生かして授業がレベルアップできる。良い授業につながる。
- ・いろいろな先生に評価してもらえる。
- ・教員の負担が減る。
- ・集中力がつく。
- ・生徒に平等性がでる。
- ・子どもの可能性が広がる。いろいろな先生に覚えてもらえる。
- ・緊張感がある。
- ・よくほめてもらえるので、がんばれる。
- ・他の先生と話しやすくなる。

効果的な取組

- ・複数回授業をすることで、より質の高い授業をすることができた。学級間で差のあった県診断テストの差も縮まり学力向上にも効果があった。
- ・担当する教科が減ったことにより、教材研究の時間が増え、しっかりと教材研究を重ねて授業に向かうことができた。また、授業構成に少しずつ修正を加えながら授業を行うことができ、授業の質も向上した。